



2014 年度事業報告

2014 年度総会で承認された事業計画とその実施状況をまとめると以下のようになる。

- 1) **コミュニティ活性化事業の支援**（定款事業⑤に該当）
 - ・日光市三依交流プロジェクト
 - ・ファイト！福島 プロジェクト ひろのカフェ in 関船

- 2) **市民活動に関する人材育成**（定款事業⑥に該当）
 - ・コミュニティビジネス起業講座
 - ・NPO 法人事務力検定セミナー in とちぎ

- 3) **市民活動に関する調査研究および政策提言**（定款事業④に該当）
 - ・地域福祉プロジェクト（共助社会研究会）

- 4) **宇都宮市まちづくりセンターの管理運営**（定款事業⑦に加えて、①、②、③、④、⑥に該当）

I. 日光市三依交流プロジェクト

<事業の対象とねらい>

- ・対象：自然と共存した暮らしや農業に関心のある都市部住民および三依地区の住民
- ・ねらい：①農作業を通じた自然との関わり方、②地域における支え合いや近所付き合いの現場、を学びながら、都市部の地域課題について考える機会を提供する。

<実現したこと>

1) 耕作放棄地（清水沢）の活用

今年度から従来の松原（せいちゃん農場）、上ノ台（さとまち農場）ではなく、電気柵完備の清水沢農場をさせていただくことになった。これに伴い、松原、上ノ台の利用権は終了した。

4月から11月までに、作業日12日、延べ36名（目標24日、70名）が、キャベツ、ブロッコリー、大根の栽培に取り組んだ。



★収支

収入合計 8,400 円（ビーフピアでの大根・ブロッコリー販売）、支出 20,992 円（原材料費、ビーフピア参加費等）で、12,592 円（目標 20,000 円の黒字）の赤字であった。

2) 第7回三依杯雪合戦

（2015年2月15日）大雪のため体験会に変更して実施。

主催：三依杯雪合戦実行委員会、

NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房

共催：野岩鉄道株式会社、会津・野岩利用促進協議会、野岩鉄道利用促進協議会、三依地区体育協会、上三依自治会

一般の部に申し込み18チーム、うち体験会参加が13チーム。またボランティアとしてTBC学院生と地域住民他約50名（目標50名）、総勢約120名が上

三依に集まった。



★収支

収入 75,000 円（16 団体・人からの寄付）、支出 128,437 円（交通費、消耗品費、仮設トイレ等）で、53,437 円（目標 34,000 円の黒字）の赤字であった。

3) その他 ビーフピア in ふじわら 2014

10月24日（金）設営準備 2名参加 10月25日（土）当日 1名参加

<今後の活動について>

両プロジェクトとも、参加者の拡大と採算性が課題である。特に耕作放棄地の活用は、ねらい①と②を実現する現場として、運営側の人材発掘が必要である。雪合戦は引き続き地域住民やボランティアの方々と協力して実施する。



II. ファイト！福島 プロジェクト ひろのカフェ in 関船

<事業の対象とねらい>

4年が経過してなお避難生活を続ける方々の憩いの場を提供すること、そして復興の現場で起こっていることを、宇都宮市内外の人に伝え、考える機会を提供する。

<実施したこと>

1) ひろのカフェ実施状況

広野町民が入居する仮設住宅（いわき市湯本）集会所での、カフェと駄菓子屋の開設を行っている。12回実施し、延べ60名のボランティア（目標11回×4名で約45名）が参加した。



表II-2-1. ひろのカフェ in 関船実施状況

第50回 4月12日（4名）	第51回 5月25日（4名）	第52回 6月28日（10名）
第53回 7月19日（4名）	第54回 8月30日（6名）	第55回 9月20日（4名）
第56回 11月1日（4名）	第57回 11月29日（6名）	第58回 12月13日（7名）
第59回 1月24日（4名）	第60回 2月21日（4名）	第61回 3月14日（3名）

★収支

収入178,626円（寄付98,626円、宇都宮大学学長支援プロジェクト80,000円）、支出180,217円（高速代、ガソリン代、消耗品費等）で1,591円の赤字。ただし、2013年度からの寄付繰越金が、160,003円。

2) 広野町視察

3月25日に広野町を訪れた。山を切り崩して土を採取し、沿岸部で道路、堤防、防災緑地を造る工事が行われていた。



3) 外部企画

①ともしびプロジェクト in うつのみや 2015 オリオンスクエア
18:00~20:00（宇都宮市社会福祉協議会主催）に出展

<今後の活動について>

広野町では今、沿岸部の工事が急ピッチで行われている。広野小学校に隣接する山を削って土を取り、その土を海岸まで運ぶダンプカーが、頻繁に出入りしていた。国道沿いのホテルには「工事者のお宿」という看板が見られ、関係者が多数宿泊していると思われる。仮設住宅の入居期限があと1年となった。町に戻るか、別の場所で暮らし始めるかの選択を迫られることになる。2014年度は、この現状を踏まえた上で活動を続けていく。また、災害公営住宅・復興公営住宅の建設が福島県内で進んでおり、いわき市にも多くの住宅が建設されているが、新しい生活を迎える方々への支援の可能性も考えていく。



Ⅲ. コミュニティビジネス起業講座（茨城県結城市委託事業）

<事業の対象とねらい>

CBに関する基礎知識を学び、ビジネス的手法を用いて地域課題の解決に取り組んでいる先事例を視察し、自らが関心を寄せるテーマについてビジネスプランを策定することを目的に実施した。

<実現したこと>

1) 3回連続講座

・第1回 7月5日(土)
講義及び視察「結いプロジェクト」「ゆいのま」
22名参加



左：市内旧黒川邸での講義風景（村瀬正尊氏）中：市内まちあるき
右：結いプロジェクトの活動拠点。空き店舗を活用した「ゆいのま」

- ・第2回 7月12日(土) 小山市での軽度生活援助の活動事例、リハビリデイサービス／サービス付高齢者住宅の視察 11名参加
- ・第3回 7月26日(土) 講義とワークショップ 9名参加

2) バスツアー 8月3日(月) 9名参加

鹿沼市で饗茶庵・天神長屋を中心に、コミュニティカフェ朱雀などを見学（右の写真）、その後宇都宮市大谷地区で活動する有限責任事業組合チイキカチ計画の現場を見学した。



<今後の活動について>

「ビジネス的手法を用いた地域課題の解決」というCBの定義は難しい。仕掛けた本人は、まちづくりを意識して始めたわけではないものの、結果として地域が元気になるという事例を探し出すのも一つのあり方だと考える。この委託事業を通して、市民工房も多くの学びがある。

Ⅳ. NPO 法人事務力検定セミナーin とちぎ

日時：2014年12月20日(土) 10:00～15:40(セミナー) 16:00～17:30(事務力検定)
場所：宇都宮大学地域連携教育研究センターA 講義室

NPO 法人ま・わ・たと主催、NPO 事務支援センター（岡山 NPO センター内）と共催で、NPO 法人の運営に必要な経理、登記、労務、所轄庁手続きなど多岐に渡る事務の理解度を問うセミナーを開催した。県内から42名がセミナーに参加し、うち23名が事務力検定（初級）を受験、19名が合格した。実行委員の2名を含め栃木県内で21名が資格を取得することとなった。

V. 地域福祉プロジェクト 共助社会研究会

<事業の対象とねらい>

地域社会は今、少子化、高齢化、貧困など多くの課題を抱えており、これらの解決には、共助の力が不可欠である。本研究会では、地域福祉の対象を、生きづらさを抱える全ての人たちと捉え、その人たちを支える共助社会を実現するために、先行事例の調査研究を行い、さらに自ら実践する新規事業化を目的に、3ヵ年計画で取り組みを始めた。

<実現したこと>

1) 聞き取り調査

①高根沢町在宅福祉ネット 9月9日、12月12日

一定の人口規模を持つ生活圏域で、障がいがあっても在宅で普通の暮らしをおくることができる社会を目指して、福祉関係団体がネットワークを作り、活動している。

②特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会 9月11日

ホームレスをはじめとした生活困窮者の自立支援のために、ハードの住宅確保とソフトの住まい方を提供し、事業化している。

③V・Gすずめ「すずめのお宿」 10月14日

ボランティアを基本に、地域で暮らしにくさを抱える人たちのために、居場所「すずめのお宿」の運営や、相談、学校支援など幅広い活動をしている。

④特定非営利活動法人ゆいの里「なじみ庵」 12月9日

街中サロン事業「なじみ庵」を運営しながら、支援する人される人という区別をなくした共助の仕組みを作り出している。

2) シンポジウム「市民が担い手となる共助社会の実現に向けて」

日時：2015年3月7日（土）13：00～16：00

場所：宇都宮市総合コミュニティセンター

「互助、共助は人間の本能、一緒に考える機会があれば、本能として共助が始まる」（ふるさとの会 滝脇氏）という言葉通り、まずは潜在している課題をあぶり出して共有することが大切だということを、再認識できたシンポジウムであった。



<今後の活動について>

これから2年間で、共助を土台にした居場所・生活の場所を作り、そこでの生活支援に市民参加の仕組みを築き、最終的には就労支援に結び付けることを目指して、引き続き調査研究を続ける。市民事業として実現するために、企業等多様な主体へも働きかけを行なう。



VI. 宇都宮市まちづくりセンターまちびあの管理運営

1. 活動場所等の提供 および 2. ネットワーキング

1) 2014（平成26）年度の利用状況および情報発信 （ ）内は2013年度

利用者	相談	研修室利用	ミーティング利用
30,995 人/年 (28,421 人)	551 件 (422 件)	1,527 団体：占有率 65%* (1,444 団体：占有率 69%)	843 団体 (873 団体)
HP アクセス	ブログアクセス	団体登録（累計）	個人登録
34,515 件 (34,160 件)	258,606 件 (153,278 件)	257 団体：新規 31、継続 224 (264 団体：新規 36、継続 228)	79 人 (57 人)
メールマガジン	情報誌	貸しオフィス	ロッカー
24 回：397 人 (26 回 389 人)	年 4 回 3,500 部	10 団体 13 区画入居	大 6、小 48 ⇒小 11 空き

*キャンセル前 73%

2) 交流事業の企画運営（下線は2014年度新規事業）

- ①まちびあ座談会 団体同士の活動紹介と交流を目的で5回開催、19団体48名が参加。
- ②あなたの人生聞かせて下さい まちづくり活動等に関わるきっかけをお聞きするための新規企画で、4回実施87名が参加した。
- ③フェスタ my 宇都宮 2014「まちびあひろば」 5月18日城址公園外周にて開催 21団体が参加。2015年度フェスタ my 宇都宮まちびあひろば（5月17日開催予定）の参加は17団体、3月21日に運営会議を開催した。
- ④まちびあまつり 2014 10月19日（土）まちびあを会場に実施した。21団体が出展し、約400名が来館した。
- ⑤ボランティア体験プログラム ア) 釜川コケ落とし大作戦 6回実施し、延べ130名が参加した。イ) JIM-NET チョコ包装ボランティア NPO 法人日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) が実施しているチョコ募金の包装と寄付募集を行った。12月5日（金）18:00～20:00、20名が参加した。
- ⑥あそび初め 近隣住民を中心としたまちびあの周知と、ボランティアの活動の場創出を目的に、2015年1月17日に開催した。ボランティア80名、来場者約350名であった。
- ⑦地域と学生をつなぐインターンシップ事業 ～平石地区～ 宇都宮大学プロジェクト研究と連動し、学生と地域住民と一緒に10年後の平石を考える事業である。3月21日に報告会を行い、来年度活動計画として、自然体験、歴史めぐり、農業体験を提案した。

3. データバンク・調査研究

「宇都宮市における多様な主体による『共助社会』実現に向けた取り組み」調査 市内5団体に聞き取り調査をし、3月7日（土）にシンポジウムを開催、90名参加。



4. NPO 法人等設立・運営支援

①助成金合同説明会 栃木県内で活動する団体が活用できる助成金の説明会と個別相談を実施した。9月6日（土）10：00～16：00 助成金交付7団体、参加52団体77名。

②NPO連続講座「今から学ぼう！NPOのアレコレ」NPO法人設立のメリット、助成金申請、会計、社団法人をテーマに実施し、延べ54名が受講した。

5. 事業支援

①宇都宮市市民活動助成金事業 平成25年度交付団体事業発表会（4月5日）および平成26年度審査会（5月9日、10日 17団体応募11団体への交付決定）運営を支援した。

②ITお助け隊 団体のIT活用支援の特別講座（FB活用、チラシ作成など）を8回実施。

③SNS事例発表会 in とちぎ 非営利団体でのSNSの活用方法を考える目的で、基調講演と事例発表を行った。7月10日（木）13：00～16：00 20名参加。

6. 人材育成

シゴトビト課外授業 自らの夢を実現する道筋を描く5回連続講座の第7シリーズ（14名受講）、第8シリーズ（13名受講）を実施した。

7. その他

まちびあ利用者協議会 全体会を6月14日に開催、役員会を9月、12月、3月に実施した。今年度は、事業報告書の提出を、全登録団体をお願いすることになった。

指定管理第I期（2012年1月～2015年3月）まとめ

	年間利用者数	研修室利用数	登録団体数	相談件数	HPアクセス数
サポセン*	25,493人	1,332件	563団体	327件	16,310件
2012年度	23,523人	1,972件	299団体	391件	32,809件
2013年度	28,421人	2,317件	267団体	422件	34,160件
2014年度	30,995人	2,370件	256団体	551件	34,515件

*サポセン2010年度データ

- ・相談内容は、法人化を含めた団体設立や団体運営、ITの活用、助成金申請等が増えた
- ・貸しオフィス 延べ17団体が入居、6団体が退去（うち3団体がオフィス開設等自立）
- ・地域と学生をつなぐインターンシップ事業がスタート。
- ・シゴトビト課外授業を通して、空き家を活用した事例が1件。
- ・登録団体同士の連携が、まちびあ座談会等を通して6例、さらに共催企画1件進行中
- ・利用者協議会を発足、まちびあの管理運営に登録団体の視点を取り入れた。
- ・2014年度は新規事業を実施し、幅広い団体支援とまちびあの周知・利用者拡大を図った。来館者と利用団体数も増えており、今後は地縁組織との関係をより密にしていこう。